

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 分科会1議事録

(開催要領)

1. 開催日時: 令和8年2月25日(水) 13:00～14:00
2. 場 所: オンライン開催
3. 出席者:

<担当幹事>

井澤徹	特定非営利活動法人新公益連盟
根岸督和	特定非営利活動法人あなたのいばしょ

<構成員>

かながわ福祉サービス振興会、香川県、ウエルシア薬局、認定NPO法人フローレンス等、計12団体13名

<事務局>

大西 連	内閣府孤独・孤立対策推進室参与
村瀬 剛太	内閣府孤独・孤立対策推進室参事官
山村 吾郎	内閣府孤独・孤立対策推進室主査
亀岬 里紗	内閣府孤独・孤立対策推進室主査
玉田 瞳	内閣府孤独・孤立対策推進室主査付
萩原 裕子	内閣府孤独・孤立対策推進室主査付

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議題
 - (1)経過説明
 - ・つながりサポーターに係る取組について
 - ・広報について(令和8年度孤独・孤立対策強化月間等)
 - (2)意見交換
 - (3)その他
- 3 閉会

(資料)

- (資料1)分科会1(第6回)プログラム
- (資料2)つながりサポーター等の取組(御報告事項)
- (資料3)つながりサポーターについての取組状況
- (資料4)令和8年度の孤独・孤立対策強化月間における主な取組(検討案)

(議事録)

○玉田氏 それでは、孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの分科会1を始めます。本日は、お忙しい中、ご参加いただき、ありがとうございます。本日の司会を務める、事務局の内閣府孤独・孤立対策推進室の玉田です。よろしくお願いします。本日の分科会はMicrosoft Teamsによるオンライン開催です。

早速、事務局より、本日のプログラムについて説明します。まず議題の1の経過説明として、内閣府孤独・孤立対策推進室の村瀬参事官より、つながりサポーターに係る取組について説明しま

す。その後、次の孤独・孤立対策強化月間について、説明します。13時30分ごろより、意見交換に移ります。終了は14時ごろを予定しています。

それでは、経過説明として、令和7年度のつながりサポーターの取組に関する報告、今後のつながりサポーター養成の展開について、村瀬参事官より説明します。参事官、お願いします。

○村瀬氏 村瀬でございます。本日は、つながりサポーターと広報関係の2本柱に沿って説明します。各論としては、このインデックスの順に、取組状況の概要、テキストの改善状況、新しいキャラクター、今後に向けた方向性です。この形で、つながりサポーターについて説明します。つながりサポーターについては、本分科会で構想を打ち出して、一昨年度から、本格的に、事業実施のためのツール、テキストや講座などを進めてきました。今年度はちょうど3年目で、軌道に乗り、さらに、これを高めて、深めていくフェーズです。

では、次のスライドです。これはつながりサポーターの実施状況です。まず、講座の開催状況ですが、今年度については、養成講座を全国56カ所で開催しています。実施主体の内訳としては、地方自治体、社会福祉法人等が中心です。今年度については、養成講座単体だけでなく、地域における孤独・孤立対策について、地域全体で一緒になって考え、連携促進・情報交換会議の中でも、養成講座を交えての議論を新たに取り入れています。この中でも養成講座をしていますので、全体としては、上の1つ目と2つ目を足して、まだ実施中のものもありますが、約60カ所で開催しています。これは昨年度、一昨年度の合計値の倍以上です。その講師だったり、またはアドバイスを頂いたり、皆さまのさまざまなご協力で進めています。

次に講座を進めるに当たり、講師と併せて、テキストがとても大事です。一般向けについては、これまでの積み上げで、ある程度固まっています。しかし、子ども向け、小中学生向けは、発達段階の途上のため、より趣旨が分かりやすく、より自分ごととして捉えやすいテキストへのブラッシュアップが、昨年度から求められています。今年度は、学校の授業での実証を通じて、テキストを改善していきますが、後ほど、また見ていただきます。併せて、さらに多々ますますということで、普及啓発に資するキャラクターを増やすことを、今年度は検討してきました。

最後に、この事業は横展開でしっかり広げていくことが非常に大事ですので、年度末に成果報告会を実施する予定です。なお、この事業については、受託業者として、野村総研様の協力を得て、今年度は実施しています。

では各論に入ります。次のスライドをお願いします。これは講座を実施する重要なツールのテキストです。子ども用のテキスト、小学生・中学生を対象とするテキストのサンプルを、2つのスライドに抜粋しています。まず、孤独・孤立対策の養成講座では、これまでも、とても充実したテキストを作っていただいています。その中で、子ども向けの場合は、ポイントをしっかりと打ち出すことがとても大事です。抜粋版でも2つほど書いていますが、1人で抱え込んでしまうと、ますます深まってしまう、難しくなってしまうという、右斜め上の8ページのもので、それから左斜め下です。その上で、周りの人に関心を持って、小さな行動でつながりづくりをサポートします。私たちの社会はお互いが影響し合っていて、踏まえて、児童・生徒に対しても、それをしっかりと理解してもらうという趣旨です。

テキストでは、この2つの点を明確にした上で、自分ごととして理解してもらうために、ワークをしっかりと組み込んでいます。スライドの右斜め下ですが、「私のサポーター行動宣言！」ということで、この養成講座を学んだ後に、自分がどのような行動を取れるのかということ、自由記述で書いてもらいます。

次のスライドです。実際に、2つのワークを抜粋しています。1つ目が「わたしのはなしマップ」です。自分自身が感じていることを誰に対して話すことができるかという、WhatとWhoの観点から、それぞれ書いてもらいます。その下は「わたしのおまもりマップ」です。これまでのことを振り返って、悩みや困り事があった時に、どのようなことをしてもらってうれしかったのかということ、逆の視点で書いてもらいます。これらをワークの中で取り入れた、ある意味で、体験型、最近の流れであるアクティブラーニングを捉えたテキストです。現在も、学校での授業で実施してもらいながら、

その改善点を洗い出し、今年度中に新しいテキストにする動きで進めています。これがテキスト面です。

3点目です。キャラクターのスライドをお願いします。3つほどキャラクターが並んでいます。孤独・孤立は従来からある課題ですが、政策としては最近クローズアップされてきたため、古くて新しい政策分野とも言えます。その意味では、しっかりと理解増進を、さまざまな人々に対して働きかけていきます。

もとより、孤独・孤立問題は、どの世代の方にも、人生のどの段階においても起こり得ます。その意味では、幅広い方々への理解増進には、キャラクターも多様性があつたほうがよいので、今までは真ん中の、黄色、オレンジベースのヒカリノがりましたが、両サイド、右側と左側、水色ベースとピンクベースのものを用意しました。人と人をつなげる、より「ゆるやかなつながり」を広げる、そして、相談することで気持ちが楽になる、このようなイメージのデザインのキャラクターを新たに用意しました。これにより、さらに一層、孤独・孤立対策について、国民の皆さまに理解いただき、困っている方々へ寄り添いながら、施策が進められるように検討していきます。

次のスライドです。これまでの取組状況について、要点をкаいつまんで説明しましたが、来年度の事業の方向性について、事務的に考えていることについて申し上げます。まず1点目は養成講座です。つながりサポーターを広げていく、養成、普及していくことが大事ですので、できるだけ、いろいろなところで講座を実施していただきます。今年度のこれまでの実施状況を踏まえて、ご覧のような箇所数で、また、箇所数だけでなく、できるだけ受講者も増やすことを念頭に置いて、行いたいと思います。

それから、鉄は熱いうちに打てという言葉もありますが、児童・生徒、子どもの段階から、孤独・孤立問題を社会的な構造問題として、学んでもらいます。今後2050年には、半数近くは言い過ぎかもしれませんが、4割を超える単身世帯という推計も出ています。発達段階の早期から、孤独・孤立対策の基礎について、養成講座でしっかりと学んでもらうことが大事です。学校はもとより、さまざまな子どもが集う場での講座の実施を目指します。

また、この後の報告事項にも絡みますが、5月は強化月間です。国民の皆さまへの一層の働きかけを孤独・孤立対策全体として行う中で、つながりサポーターの養成講座についても、オンライン講座を実施します。

3点目です。どちらかというと、これまでの養成講座はインプットが中心でした。個々人の判断にはなりますが、孤独・孤立対策を行うためには、先ほど、私たちの社会は、お互いが関係し合って、影響し合って構築されると申し上げましたが、社会参画といいますか、それぞれの方々ができるところで、1歩、2歩を踏み出すことが大切です。例えば地域の関連講座と養成講座をタイアップする、学びたい方々のキャリアパスに資する形に位置付ける、また、つながりサポーターを学んだ後に、地域の課題解決の実践につなげます。このように、ビヘイビア、ユースケースの構築に向けた検討を行います。インプットからアウトプット、インプットとともにアウトプットの方向も視野に入れることが、今後の施策を検討する上では大事です。これらを踏まえて、引き続き、先ほど話したテキストの改善も行いながら進めていくことが大事です。

最後に、昨年度も指導者向けに、手元の指導用の資料、端的に言うと指導用の読み上げのツールも用意いただきましたが、これまでの3年間の取組を踏まえて、来年度はいろいろと動きもあるため、指導者用講習の実施も検討します。これにより、より広がりのある、奥行きのある講座の展開につなげます。私からは以上です。

○玉田氏　ありがとうございます。続いて、令和8年度孤独・孤立対策強化月間について、村瀬参事官より、説明をお願いします。

○村瀬氏　冒頭に、大まかに説明します。「広報について」と書いていますが、大きく2つの柱としては丸印で書いています。まず1つ目が「月間での取組」です。月間についても、これまでの分科会での構想を踏まえて、昨年度からは、より本格的に、より充実した取組をオンラインも含めて進めてきました。従って、次の5月は、さらにシナジー効果を発揮した、このような視点も含めた取

組を検討しています。今年度は、ちょうどシンポジウムで、居場所づくり、相談支援という時宜を得たテーマで行っていただきました。これを踏まえて、取り込んで、居場所づくりとしては地域における多世代交流、また、相談支援活動を通じた当事者への傾聴を行います。これまでも当事者をしっかりと意識して行ってきましたが、よりダイレクトに、より耳を傾けます。このように、できることを行います。このような取組をしていきます。

さらには、これまでもつながりづくりのための活動をしていますが、とりわけコミュニティダイニングを通じたウェルビーイングの視点、世界幸福度調査などでも指摘されていますので、そのようなところも意識して、取組を進めていきます。

次のスライドに「月間の主な取組(検討案)」を付けています。これは、先の、本プラットフォームの幹事会で報告した資料をベースにしています。次の5月においても、ゴールデンウィークを中心に、この月間を実施します。また、オンライン空間の開設時期、それからオンライン空間、電話やチャットなどを活用する相談支援関係については、5月のゴールデンウィークの時期あたりに実施する方向で、スケジュールとしては考えています。

2つ目の箱の左側は広報です。従来から地道に、ご覧のようなポスターや特設のウェブサイトを作って、発信しています。次回の5月については、左側の、リボンが交わるデザインのポスター、またウェブサイトでは、人と人が交わり合う、温度感のあるキービジュアルを展開します。皆さまには、先んじて見ていただきました。

右側のイベントについては、先ほど申し上げたとおりです。シンポジウム・対談については、先ほど申し上げました。つながりサポーター養成講座も同じように提供していきます。また、本日は地方自治体の皆さまも参画していますが、自治体における取組の紹介の展示活動も行います。まずは月間の関係です。では、1つ前のスライドに戻ります。

2つ目です。実は、私たちが昨年の秋に行った世論調査では、孤独・孤立対策についての認知度は必ずしも上がっていませんでした。私たちは一生懸命取り組んでいるつもりですが、認知度が低いため、より国民の皆さまのタッチポイントを増やしていきます。その意味では、今風の言葉で言うと、よりキャッチーな広報用動画を作ります。3種類ほど、最終の局面で取り組んでいます。

チェックポイントの1つ目ですが、孤独・孤立対策で、今までも皆さまに協力いただいて、いろいろなプロモーション、動画を作りましたが、正面から孤独・孤立対策の意義を捉えた動画がありませんでした。従って、真っすぐにゼネラルなものを作ることが1点目です。

2点目は好事例の活動紹介動画ということで、これまでに取り組んでいない、あるいは取組が薄い分野についての活動紹介動画を作ります。

最後の3点目ですが、孤独・孤立を自覚していない方々も中にはいますので、そのような方々のタッチポイントを増やす観点から、著名人を活用した動画を作ります。世代別に、若年層向け、中高年層向けのものを、それぞれ年度末に向けて、現在、最終の局面で作成しています。出来上がり次第、皆さまに共有して見ていただき、しっかりと取組の普及・啓発を進めていきます。私からは以上です。

○玉田氏　ありがとうございます。それでは、これより意見交換のパートに移ります。質問や意見のある方は挙手ボタンを押して、発言してください。これ以降は大西参与に進行をお願いしてもよろしいですか。

○大西氏　分かりました。大西です。聞こえますか。私もオンラインが不安定でしたら、すみません。よろしくお願いします。せっかく村瀬参事官から説明がありましたので、何か質問や気になったことがあれば、幅広く皆さまから伺った上で、プラスアルファで意見交換を行います。まずは、単純に気になったことや、もう少し教えてほしいこと、意見、質問などがあれば伺います。手挙げでもチャットでも構いません。どなたでも、よろしければお願いします。出なければ、幹事団体の2人に順番に振ります。補足の説明でも構いませんので、ぜひ率直に教えてください。井澤様からお願いします。

○井澤氏　分科会1の幹事団体、新公益連盟の井澤です。よろしくお願いします。つながりサ

ポーター養成講座に関しては、先ほど参事官から3年目という話がありました。初年度は、確か20力所程度で、試行という位置付けで始めたものが、今や60力所です。私が複数の場所で講師を担う中で感じた事柄について、せっかくの機会ですので、お話しします。

昨年は、老人クラブ連合会のブロック会議で講座を開きましたが、老人クラブ連合会の広域団体のネットワークを通じて、裾野が広がっていると感じました。ブロック会議の下で、次は横浜市の老連、さらにその次は横浜市の各区の老連、鶴見区や泉区で、私も講座を開催しましたが、次々と裾野が広がっていることを実感しています。

さらに、もう一つの特徴としては、企業の職域もかなり広がっていると感じました。企業の資源と地域の社会課題をうまく結び付けています。私は福井のとある金融機関に行きましたが、その金融機関の営業職員が、地域におけるエコシステム構築の担い手となり、独居の高齢世帯の皆様へのドアノックなどを通じて、見守り活動の一端を担っています。さらに、その背後で、地域のコミュニティナースの皆様との連携を通じて、接点の強化を図るという対策活動もしていて、皆様で、つながりサポーター養成講座を受講した実例がありました。いずれにしても、地域の具体的な活動につなげる意味でも、一歩進んだという実感を持っています。以上です。

○大西氏　ありがとうございます。まさに今年度は各地で講座を行っていただきました。井澤様が話したとおり、企業の積極的な取組や、地域でいろいろな活動をする皆様の取組などが少しずつ広がっていくのではないかと期待も含めて、今日は各自治体から来ている方もいるため、よろしければ後で声を聞きたいと思います。この流れで、同じく全国で講座をやっていた根岸様、お願いします。

○根岸氏　承知しました。NPO法人あなたのいばしょの理事長の根岸です。私も分科会1の幹事団体として参加して、当つながりサポーターにおいては、きのうも、さきおととも伺いました。私は2点伝えたいと思います。

まず、昨年との変化点は、井澤様がおっしゃったことと一部かぶりますが、昨年は、つながりサポーター自体がそもそもどのようなものかという質問が結構ありました。今年は、つながりサポーター、そしてつながりサポーター養成講座が、ある程度は参加者に染み渡っていて、それを経た上で、どのようにすればよいかという温度感だったものが、裾野が広がって、次々と浸透しているのではないかと感じました。これが1点目です。

2点目について、ほぼ全ての場所で、時間が超過するぐらい、いろいろな質問を頂きました。幸いに私たちも、孤独・孤立で、特に望まない孤独がない社会の実現に取り組んでいる法人のため、その文脈でもいろいろありました。それぞれを代表して来ているNPOの方、社会福祉協議会の方、民生委員、一般人も含めて、自分と誰かが今抱える課題で具体的に質問をしました。要は、自分の本当の悩みをどうすればよいかという問いを私に投げかけてくれました。

私自身は、私たちは相談窓口をしていますので、相談員であれば、このような対応する、私たちがならば、このような対応をすると話しました。それと同時に、これは良いと思ったことは、その場にいる、恐らく初めて同士の方がつながって、終わった後に会話などをしている景色を見ました。この養成講座を通じて、個々の課題が、その地域での横のつながりに、どんどんなっているのではないかとということも実感しました。以上、2点です。

○大西氏　ありがとうございます。私も何力所かで行いしましたが、思った以上に結構熱がありました。参加者同士のつながりができて、何かアクションを起こしたい方が非常にたくさんいることは心強いです。そのエネルギーをどのように次のアクションにつなげるかということもそうですが、きっかけとして、この分科会1が、声を上げやすい、かけやすい社会となるための第一歩のツールとして、期待が持てると思います。

今、北海道社協の山崎様からチャットで質問を頂きましたので、読み上げます。「冒頭に説明があった、孤独・孤立対策の子ども用の資料はホームページにアップされていますか。それとも今後アップされますか」ということですが、村瀬参事官から回答をよろしいですか。

○村瀬氏　承知しました。テキストについては、ちょうど改善、ブラッシュアップをしています。ブ

ラッシュアップができ次第、アップしますので、見ていただければと思います。

○大西氏 まさに検討会で、いろいろ議論をしながら作り上げている途中です。来年度はそれを用いて、学校などを行えるようにということですか。

○村瀬氏 そのとおりです。

○大西氏 むしろ、今日参加している方で、学校などでできる方がいれば、ぜひ協力いただきたいですね。村瀬参事官、それで合っていますか。

○村瀬氏 そうです。学校でもやっていただきたいです。また、今、北海道の社協様ということで、社会福祉の文脈でも、児童・生徒が集まる場面が結構あると思います。そのような場面を通じて、よろしければ活用して、フィードバックを頂ければ、より良いものにつなげていきますので、よろしくお願いします。

○大西氏 ありがとうございます。今日参加している皆様で、お名前で、社協や自治体などの団体が分かれば、耳だけで参加しているつもりかもしれませんが、勝手に振られるかもしれません。まさに参事官が話したように、色々な場所で講座を行うことによって、多くの方に関心を持ってもらい、つながりが生まれることが、この講座の趣旨です。

まさに社協様もそうですし、それからお名前だけで言えば、フローレンスの玉川様が来ています。それぞれの団体に関わる方向けにやっていただいて、色々な形で広げていただければ、とてもうれしいです。これを来年度も含めて行います。山崎様、ありがとうございます。「市町村社協の福祉教育(学校教育)の場面での活用がたくさん見込めそうです。」とチャットをいただきました。ぜひ一緒にやっていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

どなたでも、意見でも感想でも構いません。声を上げて、手挙げ機能でも、今のようにチャットでも構いませんが、発言いただける方がいれば、ぜひお願いします。なければ、私の独断と偏見で指します。ウエルシア薬局の鈴木様はいかがでしょう。ウエルシア様には、今年度は大変お世話になりました。

○鈴木氏 いつもお世話になっています。ウエルシア薬局の鈴木です。タッチポイントを増やすために著名人を起用するなど、色々な方に接点が広がると思うと、とても楽しみです。また、子どもも巻き込んで、小さなうちから、孤独・孤立ではなく、皆と一緒にという感じに広がってほしいという思いがあります。今日の話を聞いて、何か私たちにできることがないか、店舗という特徴で、地域のハブ役になればよいと考えました。

○大西氏 ありがとうございます。ウエルシア薬局様とは、今年度の月間の時に、会長と対談をしました。まさにウエルシア薬局様の中に、カフェ、居場所のスペースを設けている店舗があります。その中で住民同士のつながりができる取組を行っています。ぜひその店舗の居場所スペースなどで、この講座やいろいろな展開ができれば、まさに職域でもあり、地域の拠点でもあるため、面白いと思います。鈴木様、いかがですか。

○鈴木氏 私の言葉を代弁していただきましたが、何かそのようなことも含めてぜひお願いします。

○大西氏 ありがとうございます。ウエルシア薬局様は、地域で一番身近にあるドラッグストアのグループですので、そのような場所で、講座やいろいろなつながりが広がっていくと、それだけでも、はっきり効果があると思います。

○鈴木氏 ありがとうございます。

○大西氏 会長様にも、また受けてもらいたいです。いくらでも行きますので、よろしくお願いします。

○鈴木氏 ありがとうございます。

○大西氏 せっかくですので、他の方で、声を出せる方、話せる方がいれば、お願いします。ではかながわ福祉サービス振興会様、次に、香川県の涌嶋様にお願いします。

○成田氏 かながわ福祉サービス振興会の成田です。今回初めて応募して、この研修を1回、

まず行いました。皆さまの発表があったとおり、つながりのある団体などに出向いて行う方法では、当然その流れでつながっていくことをよく感じました。私たちは横浜市中区にある団体で、今回はオープンに、県内全体に、つながりサポーター養成講座を開催することを、さまざまな福祉の団体等に投げかけましたが、なかなか人を集めることが大変でした。「つながりサポーターとは何ですか」という質問が先にあって、結局は内閣府様のホームページで説明しましたが、もう少し間に入る、分かりやすいツールがあればと思います。まだ、なかなか分かっていない団体もありますので、初めてオープンにする時には、チラシにもそのような内容が載せられるとよいと思いました。それができればありがたいのですが、意見やアドバイスを頂きたいです。

○大西氏 ありがとうございます。手引きのような、開催するに当たってのツールのセットがあればよいということですか。

○成田氏 そうです。特に周知のところで、受けない人に、最初の入り口として理解してもらうことが、孤独・孤立でも、まだ分からない人もたくさんいますので、そこに苦労しました。

○大西氏 ありがとうございます。確かに、既にいろいろな取組をしている関係者向けに行う段階と、いわゆる一般の方向け、市民講座的に行うことでは、当然理解のレイヤーがかなり変わります。それぞれの状況に応じた、学校でやるならば学校の先生向けの説明の資料が要ることと同じように、市民が開催するタイミングでは、どのような説明資料が必要なのかということは、今頂いた点も含めて、大事なポイントですので、また検討会や事務局などでも議論をします。ちなみに、ツールがない中でどのように説明しましたか。

○成田氏 まず、内閣府様のホームページを使いました。孤独・孤立対策のところから、かみ砕いて説明しました。

○大西氏 その時に「ホームページのこの部分だと分かりやすい」などでもよいかもしれません。非常に大事なインプットを頂きました。ありがとうございました。

○成田氏 よろしく願います。

○大西氏 それでは、香川県の涌嶋様、よろしくお願いします。

○涌嶋氏 香川県の涌嶋です。よろしくお願いします。この間は非常に有意義な時間を過ごさせていただき、ありがとうございます。私も感想ですが、先日、大西参与にも来ていただき、孤独・孤立のセミナーを香川県で行いましたが、やはり長期間で働きかけることがとても大事だと思いました。子どもを対象に、つながりサポーター、孤独・孤立に関して考える時間を取ってもらうことは非常に良いと思います。他のサポーター、ひきこもりサポーターや認知症サポーターなどの養成講座の時に、つながりサポーターの養成講座をくっつけて開催している団体があれば、お話を聞きたいです。

○大西氏 ありがとうございます。くっつけて行う自体は全く問題ないと思います。村瀬参事官、他の講座との整理や組み合わせなどは、基本的には、むしろ積極的に行っていただきたいという理解で合っていますか。

○村瀬氏 耳学問ですが、実際に東海地方の愛知県辺りのエリアでは、「親の育ち」家庭教育支援者養成講座といった講座があります。その講座の実施主体に、今回のつながりサポーター事業でヒアリングを実施していただきました。先ほども、来年度に実施する方向性のところで、関連講座の情報を提供することを申し上げましたが、そのような形でインセンティブを高めたいと思います。自治体の方々ですので、留意点についてはご案内のとおりですが、公的な資金が入る場合は、コンタミが生じないように気を付けてください。以上です。

○大西氏 ありがとうございます。いろいろな講座で、もちろんそれぞれ文脈の違いはありますが、共通するポイントがあります。従って、自治体レベルでうまく組み合わせて、次のステップとして、このような講座がある、最初の入り口としてはつながりサポーター養成講座があるなど、民生委員や社協の皆様、地域の皆様がより受講しやすいプログラムを、いろいろな形でこれから作っていくことは、課題感として、私たちも持っています。それも含めて、来年度はいろいろ考えます。

せっかくですので香川県様も、プラットフォームの中でどのようなことをやろうかというところで、お力添えを頂ければうれしいです。涌嶋様、よろしくお願いします。では、玉川様、マイクは入りますか。

○玉川氏　ありがとうございます。つながりサポーターというワードはもちろん知っていたものの、遠くから取組を見ている状態で、今回は気になって参加しました。私たちは、親子、子育て文脈で支援をすることが多く、その中で私がやっている事業は、LINEを使った相談ですが、感じるのは子育て家庭の孤独・孤立です。孤独・孤立の中でもいろいろな方がいると思いますが、子育て家庭の孤立も、それはそれで非常に根深く、支援につながらない現状が社会的な課題で、そこと連動する部分があります。

私たちはLINEを使ってリーチをします。施策の中にも、プッシュ型とリーチ型がありますが、LINEを使ってリーチした後に、この家庭は孤立家庭だと分かった後に、自分たちだけとつながり続ければよいかという、そうではありません。この先、生きていく中で、子育てしていく中で、さまざまな地域の方や支援機関と連携して、支えてもらう必要があります。いかにその親子の周りのつながりを増やすかという観点で捉えています。

その時に、リアルのつなぎ先とどのようにつながるかが大事です。つながりサポーターが増えて、そのような方が周りにいるかもしれないという案内をすることで、少しでも孤独・孤立状態の緩和につながると思いながら、聞きました。以上、感想です。

○大西氏　ありがとうございます。非常に大事な視点です。特にSNSの相談やチャットの相談、電話相談でも、どうしても全国的に受けていると、匿名性の良い部分もありますが、私より根岸様のほうがはるかに専門ですが、リアルなところとどのように接合するかということがあります。この間に、このような枠組みができて、仲間が増えて、スムーズにリアルな顔が見える関係を地域でつくれます。ただ、匿名で誰かに聞いてもらいたい時も絶対にありますので、そのすみ分けができて、裏側では皆がつながっていると、とても面白いと思います。それこそフローレンス様はいろいろな事業をしていて、保育士もたくさんいます。皆様にも受けてもらうなど、いろいろな形でやれば面白いと思います。急に振って、すみません。ありがとうございました。

○玉川氏　いいえ、ありがとうございます。

○大西氏　チャットでも頂いていますので、少し紹介します。富山県厚生企画課の安積様です。「令和6年度と令和7年度に、内閣府の事業に採択していただき、つながりサポーター養成講座を開催しました。参加者は支援団体の方が多い状況です。一般県民を巻き込んでいくために工夫している好事例などの助言を頂けると嬉しいです」ということです。

一般の方向けというよりは、まだ、どちらかというと関係者向けですが、村瀬参事官は、この点で何かありますか。一般の方向けに、ここではこのように行ったという事例はありますか。

○村瀬氏　釈迦(しゃか)に説法かもしれませんが、手を挙げている方々の、それぞれの、一言で言うとネットワークだと思います。ダイレクトに言うことがはばかられるため、分かりにくいかもしれませんが、オブラートに包んで言うと、先ほども子育ての話がありましたが、心ならずも課題があります。療育するに当たって、いろいろと配慮のいる子どもがいる親に対して、視野を広げる文脈で、今回のつながりサポーターを開催した団体があります。もともとその団体は、それぞれの親と付き合いがあるところですので、世間一般の方々です。

その団体には、2回目もやっていただきました。ある意味、ロコミで、この親御さんが「良かった」と言ってくれて、「自分も行ってみよう」というような話がありました。ですので、リードタイムをしっかりと取ります。今回はリードタイムが足りませんでした。要するに助走期間です。助走期間を長く取って、自治体ですので、住民向けに近いセクションもありますので、そのようなところと一緒に行って、時間を取る工夫をしながらだと思っています。どうぞよろしくお願いします。答えになっていなければ、すみません。

○大西氏　まさに、富山県はいろいろな取組の仕方の工夫と一緒に考えていけるとと思います。現時点では、まず関係者や近い領域、関心を持っている方を、固めていくと言うと変ですが、まず

はそのような方に知ってもらいます。そして、どのように裾野を広げていくかというところでもありますが、ステップ・バイ・ステップで行う必要がありますので、富山県の皆様ともいろいろ相談しながら、来年度はできればうれしいです。

残り3分ですので、チャットを頂いた埼玉県東松山市の福島様で最後にします。「今年度民生委員の一斉改選があり、新任の方向けに講座を実施したところ、大変好評でした。講師をやらせていただきましたが、資料などのフォローアップが手厚く、不安なく取り組むことができました。また、二部制とし、後半は地域共生社会づくりの研修(厚労省支援)を実施しました。重なる部分もあり、効果があったと考えています。回数を増やしていきたいため、来年度は、市が行っている出前講座に組み入れたいと計画していますが、差し支えないでしょうか。」ということです。差し支えないと思いますが、村瀬参事官、お願いします。

○村瀬氏 よろしいかと思います。むしろ、そのような企画で、こうだったということをフィードバックで教えていただいて、広げていきます。よろしくお願いします。

○大西氏 ぜひフィードバックをもらいたいです。私も先日、群馬県のみどり市で実施した後に、ヤクルト様がとても関心を持って、またやりたいという話がありました。広げていきたいというフィードバックを皆様から頂いていて、他の地域でも、まねできる、そこはこうにできるということを、私たちもいろいろ教えていただいて、進めていきたいです。今日の場合だけではなく、メールなど、いろいろな形でアクセスしていただいても、私たちはありがたいです。ぜひ、いろいろ感想や意見を含めて、頂ければと思います。時間があと1分ですので、一度終わりにして、司会の玉田さんに戻します。玉田さん、お願いします。

○玉田氏 大西参与、皆様、本当にありがとうございました。本日、頂いた意見については、今後のつながりサポーターの取組、および分科会1の取組の参考とします。調整については、担当幹事に一任いただきます。それでは、そろそろ時間ですので、参加いただいた会員の皆さま、担当幹事の皆さま、そして大西参与、本日はありがとうございました。

最後に事務局よりご案内です。この分科会1は、今後の取組の進捗に応じて開催する予定です。次回の開催については、改めてご案内します。それでは以上をもって、本日の分科会1を終了します。本日はご参加いただき、ありがとうございました。

以上